

## 授業科目

## 内部障害理学療法学

担当教員名 橋 淳裕、松本 香好美、森下 慎一郎、山内 一	対象学年	3	対象学科	理学
	開講時期	前期	必修・選択	必修
	単位数	5	時間数	105

## ディプロマポリシーとの関連性

知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎	○	◎	◎	◎

## 授業の概要

内部障害の生理的变化と障害による病態変化について整理し、内部障害における理学療法の位置付けや役割について理解する。また、内部障害をもつ患者に対する評価、治療方法および治療効果についての理論的考察を行う。

## 授業の目的

内部障害によってもたらされる機能障害や運動制限の成因・病態・回復過程・予後について学習する。また、理学療法におけるリスク管理、評価、運動療法、物理療法、日常生活指導、生活環境支援の理論と技術を系統的に習得する。

## 学習目標

1. 呼吸器系の解剖・運動・生理学的な知識を習得し、呼吸器疾患の生理的变化と病態について説明できる。
2. 呼吸リハビリテーションにおける情報収集の内容と評価項目を列挙し、疾患別に必要な情報収集と評価項目を選択できる。
3. 疾患別の呼吸理学療法を計画し、目的から治療効果についてまで述べる事ができる。
4. 呼吸理学療法に必要な評価、治療技術を習得し、実施できる。
5. 運動負荷試験について説明することができ、それに基づく運動処方ができる。
6. 心電図の基礎波形について説明でき、不整脈と運動について説明できる。
7. 心臓機能の障害とそれによってもたらされる運動制限について、説明できる。
8. 循環器疾患の理学療法の効果とその機序について、論理的に説明できる。
9. 循環器疾患のリスク管理について習得し、実施できる。
10. 代謝疾患の理学療法の効果とその機序について、論理的に説明できる。
11. がんのリハビリテーションにおける理学療法の役割について説明できる。
12. がんの理学療法の対象疾患について説明できる。
13. がんの理学療法をする際のリスク管理について説明できる。
14. がん疾患の理学療法の効果とその機序について、論理的に説明できる。
15. 代表的な疾患をもとに、根拠に基づいた理学療法を実施できる。

## 授業計画

回数	授業計画・学習の主題	学習方法・学習課題・備考	担当教員
1	内部障害理学療法学総論	講義	松本 香好美
2	呼吸リハビリテーション総論	講義	松本 香好美
3	呼吸器系の解剖学、運動学、生理学	講義	松本 香好美
4	呼吸器疾患の生理的变化と病態	講義	松本 香好美
5	呼吸リハビリテーションにおける情報収集と評価1	講義	松本 香好美
6	呼吸リハビリテーションにおける情報収集と評価2	講義	松本 香好美
7	疾患別呼吸理学療法1	講義	松本 香好美
8	疾患別呼吸理学療法2	講義	松本 香好美
9	関連臓器の生理的变化と病態	講義	橋 淳裕
10	関連臓器の障害と運動・日常生活の制限	講義	橋 淳裕
11	循環器疾患・代謝疾患における情報収集と評価	講義	橋 淳裕
12	運動負荷テストとそれに基づく運動処方	講義	橋 淳裕
13	心電図の基礎波形、不整脈と運動	講義	橋 淳裕
14	循環器疾患・代謝疾患の理学療法とその効果および機序	講義	橋 淳裕
15	循環器疾患・代謝疾患のリスク管理、代表的な疾患の理学療法	講義	橋 淳裕
16	がんリハビリテーション総論	講義	森下 慎一郎
17	がんのリハビリテーションにおける各専門職種役割とチームアプローチ	講義	森下 慎一郎

18	化学療法・放射線療法の合併症とリスク管理	講義	森下 慎一郎
19	悪液質とサルコペニア リハビリテーション栄養アプローチ	講義	森下 慎一郎
20	疾患別がん理学療法1（脳腫瘍、頭頸部がん、乳がん、婦人科がん）	講義	森下 慎一郎
21	疾患別がん理学療法2（肺がん・消化器系がん、骨軟部腫瘍、骨転移）	講義	森下 慎一郎
22	疾患別がん理学療法3（造血管腫瘍、小児がん）	講義	森下 慎一郎
23	緩和ケアの理学療法	講義	森下 慎一郎
24-27	呼吸理学療法における評価	演習	松本 香好美
28-31	呼吸理学療法の治療技術	演習	松本 香好美
32-33	吸引演習	演習	松本 香好美
34-35	運動負荷テストと運動処方	演習	椿 淳裕
36-38	循環器疾患・代謝疾患の理学療法評価	演習	椿 淳裕
39-41	循環器疾患・代謝疾患の理学療法	演習	椿 淳裕
42-43	一次救命処置	演習	山内 一
44-45	各種がん疾患の理学療法評価	演習	森下 慎一郎
46-47	各種がん疾患の理学療法	演習	森下 慎一郎
48-50	リンパ浮腫に対する理学療法	演習	森下 慎一郎
51-53	がんの理学療法の問題点とその解決（グループワーク）	演習	森下 慎一郎

## 使用図書

使用図書	書名	著者名	発行所	発行年	価格	その他
教科書	内部障害理学療法学テキスト	細田多穂（監修） 他	南光堂	2012年	4,800円＋税	
参考書	呼吸理学療法標準手技	千住秀明（監修） 他	医学書院	2008年	3,200円＋税	
	循環器理学療法の理論と技術	増田卓（編集）、松永篤彦（編集）	メジカルビュー社	2009年	5,700円＋税	
	がんのリハビリテーションマニュアル: 術期から緩和ケアまで	辻哲也（編集）	医学書院	2011年	4,600円＋税	
その他の資料	授業資料を配付					

## 評価方法

知識理解・技能の確認として小テストまたは課題提示を行う。

実技試験（口頭試問を含む）および定期試験で60点以上であることが単位取得において必須である。その点数に小テストまたは課題、意欲的に取り組む授業態度等を加味する。

評価の割合は、実技試験（口頭試問を含む）および定期試験90%程度、その他10%程度とする。

## 履修上の留意点

解剖学、生理学、運動学、内科学などの関連する科目を復習した上で、授業に臨むこと。

演習はTシャツ・短パンの上に医務衣を着用して授業に参加すること。

聴診器は購入した自分の聴診器を持参し使用すること。

出席が規定の回数に満たない場合、定期試験を受験することができません。

## オフィスアワー・連絡先

椿：オフィスアワー 12:00～13:30（月曜日、火曜日、木曜日）、連絡先 tsubaki@nuhw.ac.jp

森下：オフィスアワー、連絡先とともに初回の授業で連絡

松本：オフィスアワー 初回の授業で連絡、連絡先 kayomi-matsumoto@nuhw.ac.jp

山内：オフィスアワー、連絡先とともに初回の授業で連絡